

特集 平成28年度 保土ヶ谷区地域運営補助金活動紹介

保土ヶ谷区地域運営補助金とは？

保土ヶ谷区地域運営補助金は、身近な地域の一定の範囲において、新たに自治会町内会と地域の様々な主体が連携・協働した、主体的・継続的な地域課題解決の取組を支援するための補助金です。(平成29年度の本補助金については、平成29年2月20日から3月10日に申請受付。補助金の振込については、請求書の御提出後5月を目途に支出します。詳しくは別途作成の募集チラシを御参考ください。)

今回は、地域運営補助金活動団体の皆様から活動について御紹介いただきました。

活動団体名 「ささやま丘の上ミュージアム」

活動構成団体 上菅田地区連合自治会・上菅田地区社会福祉協議会
上菅田地区まちづくり協議会・笹山小学校PTA協議会・
交通安全母の会 他関係団体

「地域と共に歩むミュージアムづくり」

1. 「ささやま丘の上ミュージアム」の発足

平成27年12月5日に開館した「ささやま丘の上ミュージアム」は開館1周年を迎え、「ふるさと上菅田」を再認識するために「ひな祭り」「端午の節句」「夏休み工作教室」「十五夜まつり」「ささの子まつり」など上菅田に伝わる四季折々の年間行事を中心としたイベントを開催してまいりました。この行事は地域の人々が「知恵と工夫」を凝らし、子どもたちに「ふるさと上菅田」の良さを理解してもらうことを最優先で取り組みを行いました。



2. 活動で工夫している点と他団体との連携

「ささやま丘の上ミュージアム」に展示してある「昔の農機具・民具」を小学校3年生の社会科の授業と結びつけることが重要なテーマのひとつで、「保土ヶ谷区内小学校の社会科研究会」や「横浜歴史博物館」の職員の方と連携協働出来たことは、地域交流としての成果でした。保土ヶ谷区内の小学生達が学校の授業を通じ、「ささやま丘の上ミュージアム」を来館し体験を通じ「昔のものづくり」の素晴らしさを勉強してもらいたいと思います。

活動で工夫している点は、「横のつながり」で、連合、地区社協、まちづくり、学校、PTAや関係団体と



の連携協働です。また、笹山コミュニティハウスの中に「ささやま丘の上ミュージアム」がありますので、笹山コミュニティハウスを利用する団体にも口コミや広報媒体を通じ

連携していることです。このように、「ささやま丘の上ミュージアム」を拠点とした地域交流が活発になったことは、現在「保土ヶ谷区第3期地域福祉保健計画」の取組の中にもあるように、「担い手づくり」の一環として人材の発掘に幅が広がった点であります。地域には様々な「特技」をもった方がおります。そういう人たちと一緒に協働していくことが、ふるさと上菅田の「地域力」を発信する原動力になると思いますので、地域のつながり、絆を強く結んでいきたいと思っています。



3. 区制90周年と今後の活動方針等

2月25日(土)には、午後2時より保土ヶ谷区制90周年記念として笹山小学校体育館において、「ふるさと上菅田と保土ヶ谷区制90周年を語る」と題し、元保土ヶ谷区長金子宣治氏による基調講演とシンポジウムを行います。講演会を通じ、地域住民の皆様方と「ふるさと上菅田」を継承するために継続して活動をしていくことが大切であると思います。さらに保土ヶ谷区制100周年を視野に、ささやま丘の上ミュージアムが「文化交流」の拠点となるよう上菅田の歴史を語り続けてまいります。そして活動を通じ、人と人のつながりを結び、未来を担う青少年の育成やまちづくりの推進を進めるために協働して活動を展開していきたいと思っています。

(寄稿: ささやま丘の上ミュージアム事務局長 堤 孝一様)

「地域支え合いのしくみづくり」活動報告

1. 常盤台地区連合町内会の

「地域支え合いのしくみづくり」の目的と概要

常盤台地区連合町内会は、多岐に亘る地域活動の原点は「支え合い」にあるとし、平成24年度から5年間、毎年度「地域の支え合い」を重点活動項目としてきました。その活動は「救急救命情報カプセル」と「支え合いマップ」の2つです。活動拠点は常盤台地域ケアプラザ・コミュニティーハウス、各自治会・町内会館で、地区社会福祉協議会、民生委員児童委員協議会、地区シニア会、ケアプラザ・コミュニティーハウス、横浜国立大学との協働で進めています。

2. 常盤台地区連合町内会の紹介

創立は昭和47年で、今年の4月に45周年を迎えます。区の北部に位置し、横浜国立大学を囲む10自治会・町内会で、住民は少子高齢化が進む個建住宅と学生向けマンションの7自治会・町内会と現役世代が多い分譲マンションの3自治会、2700世帯から成立っています。

3. 「救急救命情報カプセル」と「地域支え合いマップ」による支え合いのしくみづくりの紹介

(1) 「救急救命情報カプセル」による自助と公助を結び支え合いのしくみづくり

緊急治療に必要な病歴・病院・薬・親近者の連絡先等を情報シートに記入しカプセルに入れ冷蔵庫に保管して、消防署へ届けを出す。救急時に情報シートにより、速やかに救命治療ができる。災害時も避難者シート情報になる。この情報シートは毎年、班長が各家庭を訪問し更新しながら、絆を強めていく。

(2) 「地域支え合いマップ」による共助の支え合い

年々増加する災害時要援護者を発災時に支えるのは誰か?隣近所で支え合うのが一番いい、その為には、普段から関わり合いを持っている必要がある。そこで、現状の災害時要援護者の方と隣近所の方の関わり合いをマップ上に矢印線で表し、要援護者を囲む隣近所の支え合う実態を見える化する。そこから、さらに関わり合いの輪を広げる計画を立てて、支え合うしくみをつくっていく。

4. 「地域支え合いしくみづくり」活動の経緯

平成24年度

- ①横浜国立大学建築計画研究室「支え合いマップ」ワークショップ 3回

平成25年度

- ①「救急救命カプセルの実施計画」、平成25年度保土ヶ谷区地域運営補助金承認
- ②救急救命カプセルのキット・情報シート・説明書の作成
- ③「救急救命カプセル説明兼配布会」 4回開催
- ④「救急救命カプセル」関係機関（消防署・警察署・区役所・区社協）へ説明

平成27年度

- ①「地域支え合いマップ作成計画」、平成27年度保土ヶ谷区地域運営補助金承認
- ②「地域支え合いマップ作成」説明会
講師 すずの会 鈴木恵子氏 3回開催
- ③自治会・町内会の各班で「地域支え合いマップ」の作成開始

平成28年度

- ①「地域支え合いのしくみづくり」、平成28年度保土ヶ谷区地域運営補助金承認
- ②「地域支え合いマップづくり」班長研修会 4回開催



- ③自治会・町内会の各班で「地域支え合いマップ」の作成開始



- ④救急救命カプセルの補充分の作成と補充

5. 平成28年度の取組み

この「地域支え合いのしくみづくり」活動は、進化しながら継続していくことが求められています。昨年度までの活動に対して下記のような工夫をして取り組んでいます。

- ①横浜国大のワークショップやすずの会の指導を受け、実践してきた経験を活かし、「支え合いマップづくり班長研修会」のカリキュラム、テキストやスライド等の教材を自前で作成し、講師も自前でやっています。
- ②研修会会場の常盤台地域ケアプラザから遠い町内会は、地元の町内会館で開催しています。
- ③各班で揃えにくい「支え合いマップ」で使う文具1式（シールや用紙等）を支給しています。

6. 活動して良かったこと、苦勞したこと

(1) 良かったこと

- ①隣近所の人々が、毎年「支え合いマップ作成会」で一同に会って、話し合う場ができ、人の輪が広がった。
- ②「救急救命情報カプセル」や「支え合いマップ」で災害時要援護者から、この活動によって「安心だ」と言ってもらえた。
- ③隣近所の人々が良く見えてくるし、隣近所で助け合うなど付き合いも深くなる。

(2) 苦勞したこと

- ①個人情報の漏洩やプライバシー問題を掲げて「地域支え合いマップ」作成に消極的な人がいる。
- ②自治会・町内会によって、取り組み方に温度差があり、特にマンションの自治会の進め方に苦勞した。

7. 今後の活動目標

- (1)「救急救命情報カプセル」「支え合いマップ作成」の活動報告会や進んでない自治会・町内会の役員と懇談会を開き理解を深めていく。
- (2)「救急救命情報カプセル」のメンテナンスを利用したの見守りや訪問活動をマニュアル化する。
- (3) 現在、班長研修の参加者が6割程度ですが、全員の班長さんに参加して頂くことを目指す。

(寄稿:常盤台地区連合町内会会長 石川 源七 様)